

2004年度中間期

業績概要

2004年10月27日

日本ビクター株式会社



Victor・JVC

The Perfect Experience

1. 民生事業：米州・欧州の販売苦戦

- ・カムコーダーの苦戦
- ・在庫正常化に至らず

2. 音楽CDの不振

- ・作品編成の中止、発売の延期等

3. 構造改革の常態化

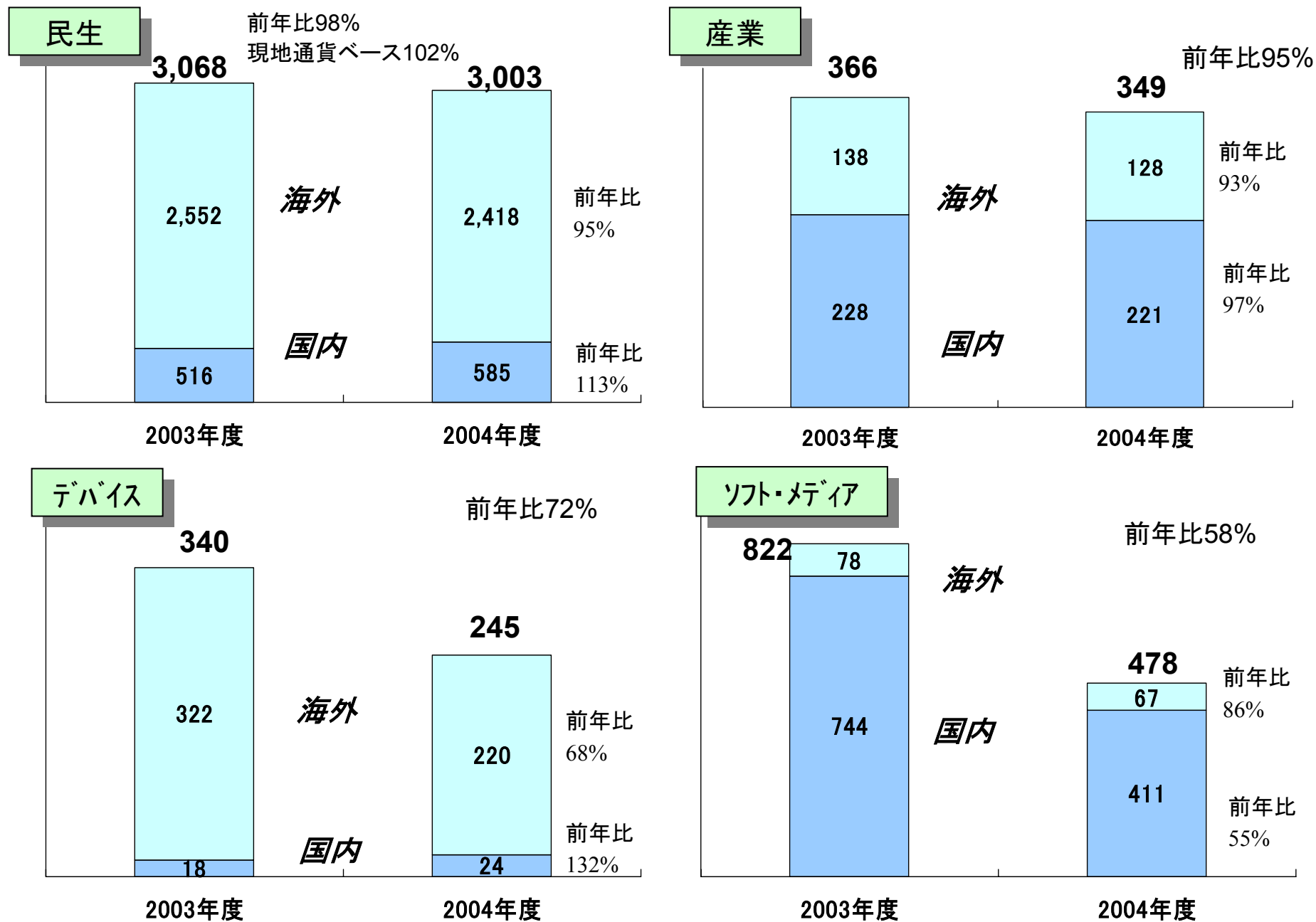
- ・デバイス構造改革
- ・雇用キャリアプログラムの導入・特別ネクストキャリア支援制度の実施(917名)

2004年度上半期(2004年9月期) 業績概要(連結)

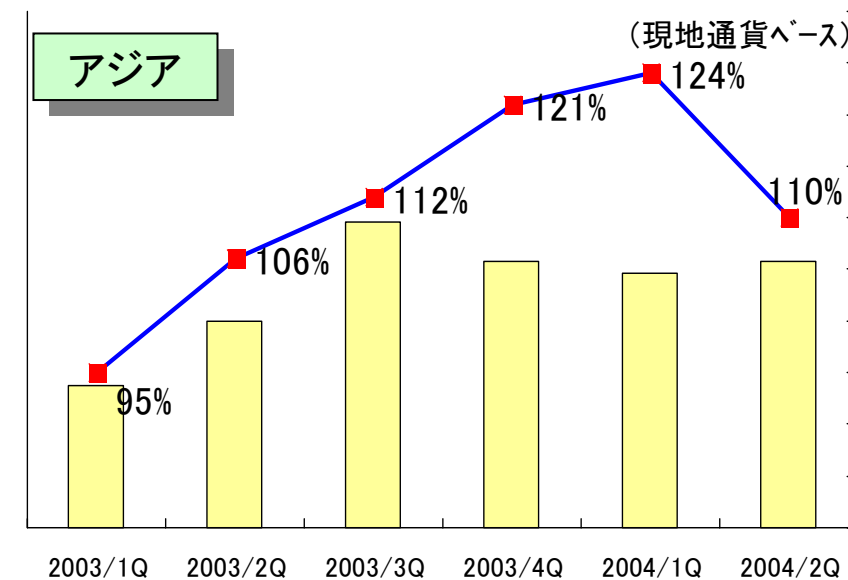
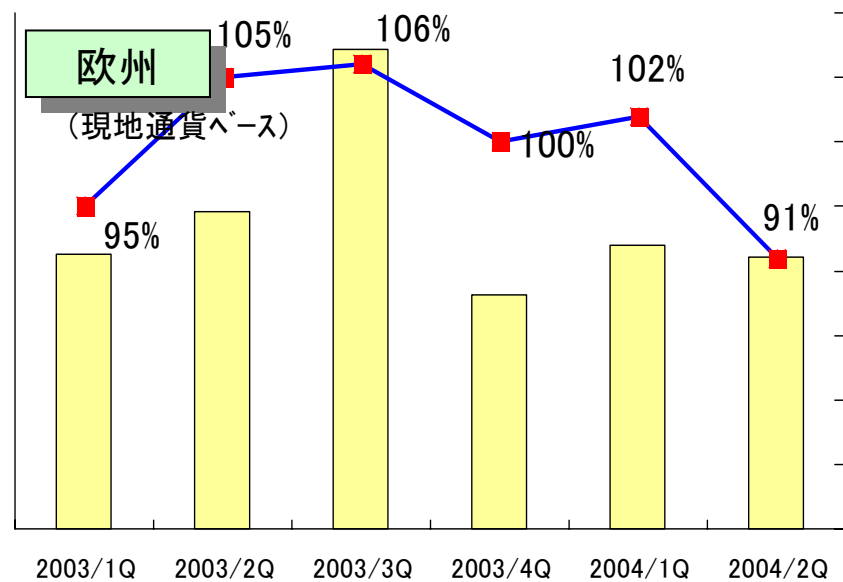
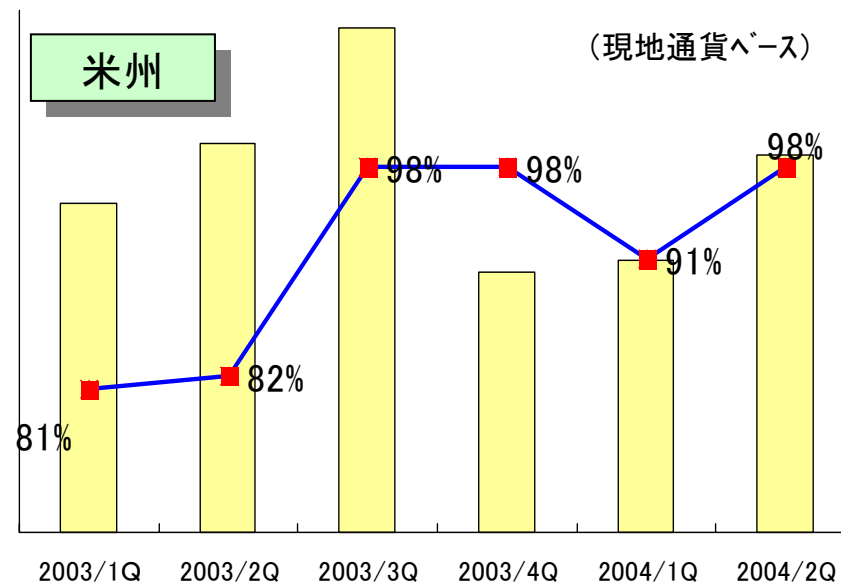
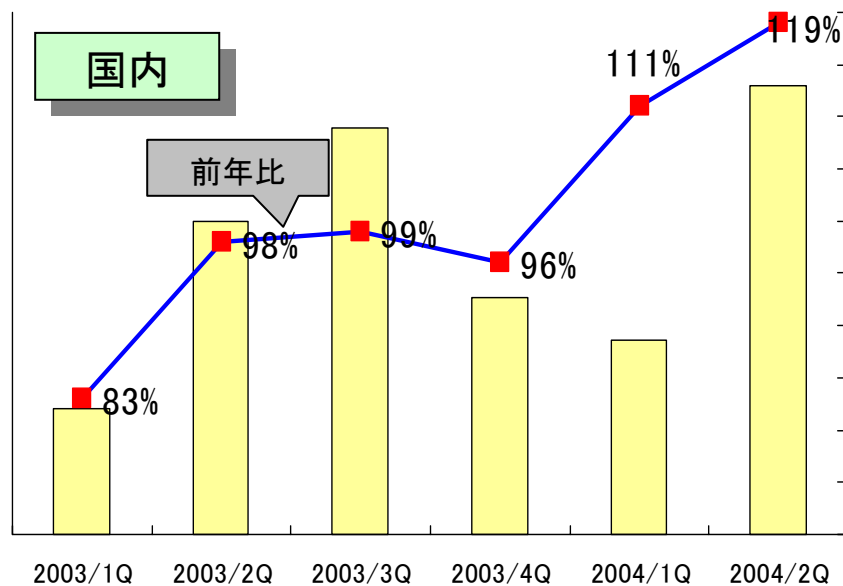
(億円)

	実 績	当初公表	前年実績	公表差	前年差
売上高	4,102	4,320	受託除< 4,386 4,627	95%	94% 89%
営業利益	1.1% 43	2.4% 105	2.2% 103	41% ▲ 62	42% ▲ 59
経常利益	0.8% 33	1.9% 84	1.6% 73	39% ▲ 52	45% ▲ 40
当期利益	-1.1% ▲ 44	0.0% 2	0.8% 35	-2185% ▲ 46	-125% ▲ 79

2004年度上半期 販売状況



四半期別 民生の販売状況(前年伸長)



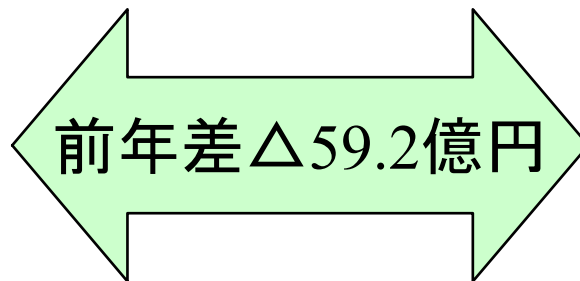
2004年度上半期 損益増減分析(前年差)

2004.10.27.

6

前年
営業利益 102.6

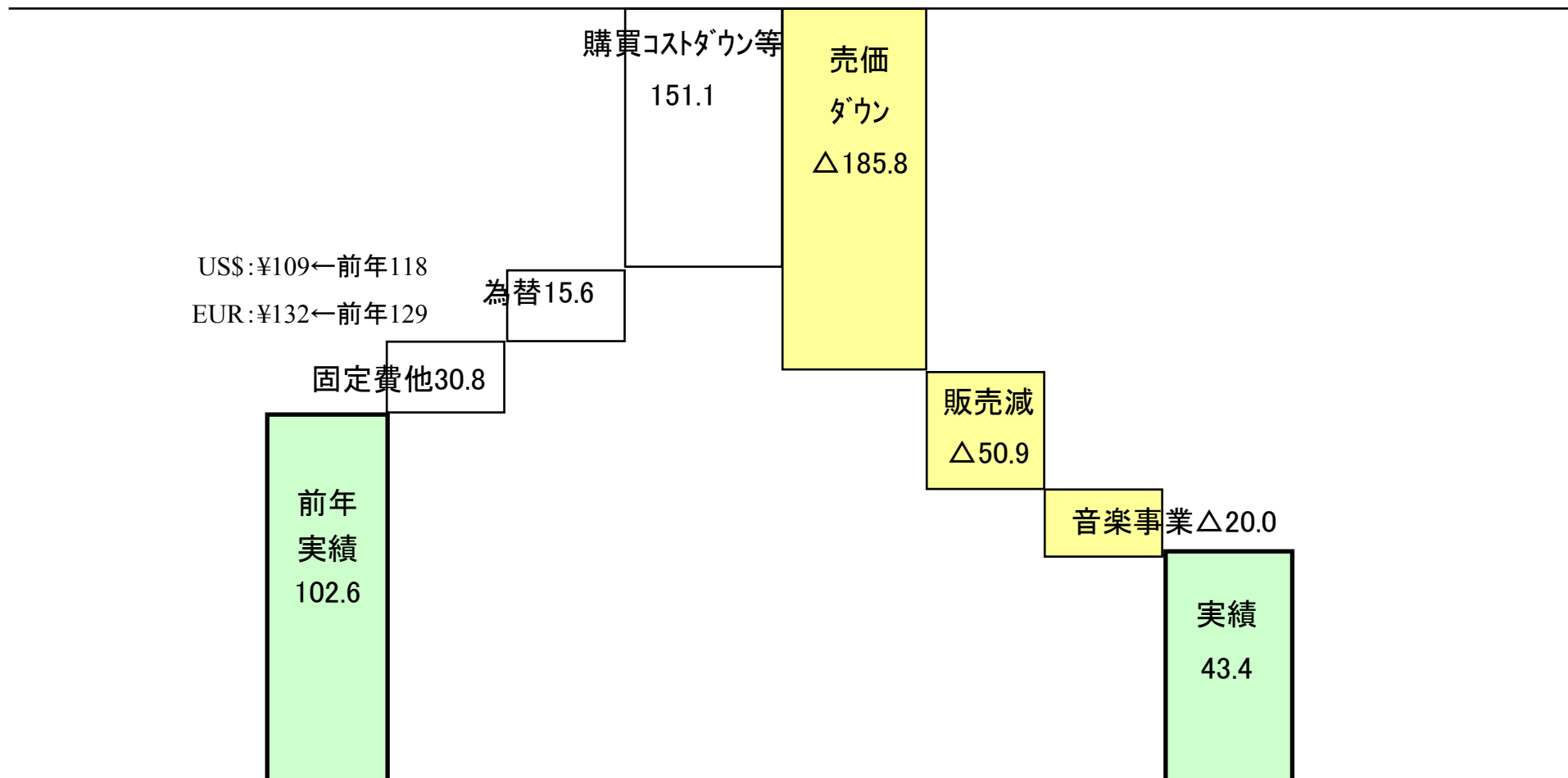
利益増加要因



現状見込
営業利益 43.4

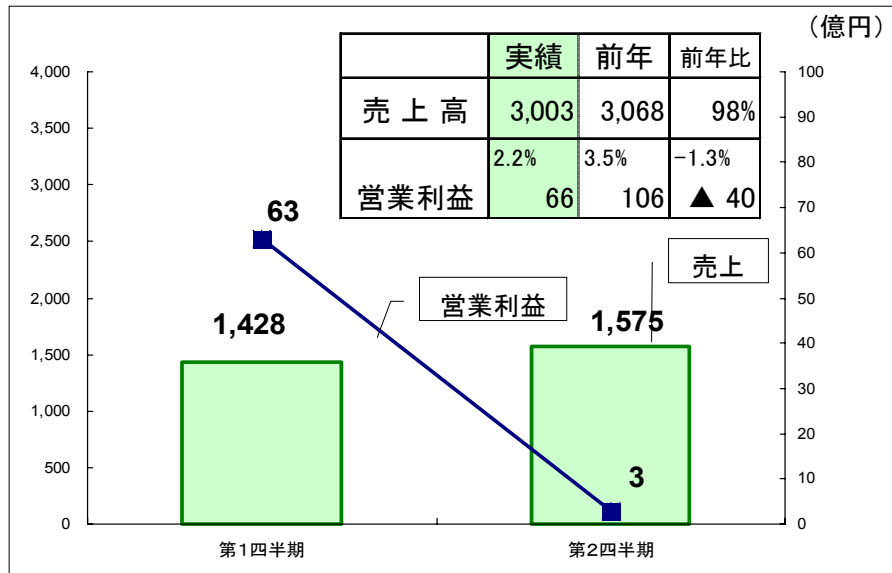
利益減少要因

(億円)

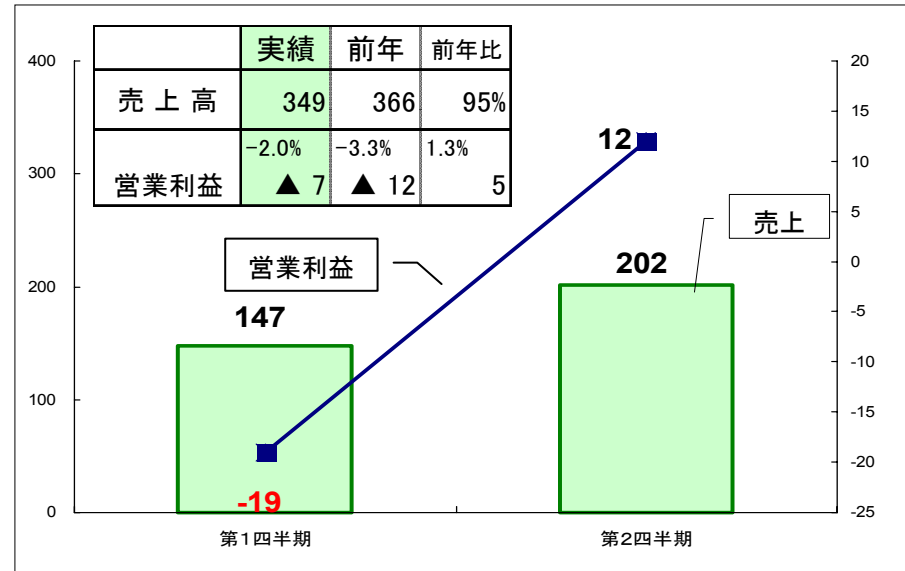


2004年度上半期 セグメント別の状況

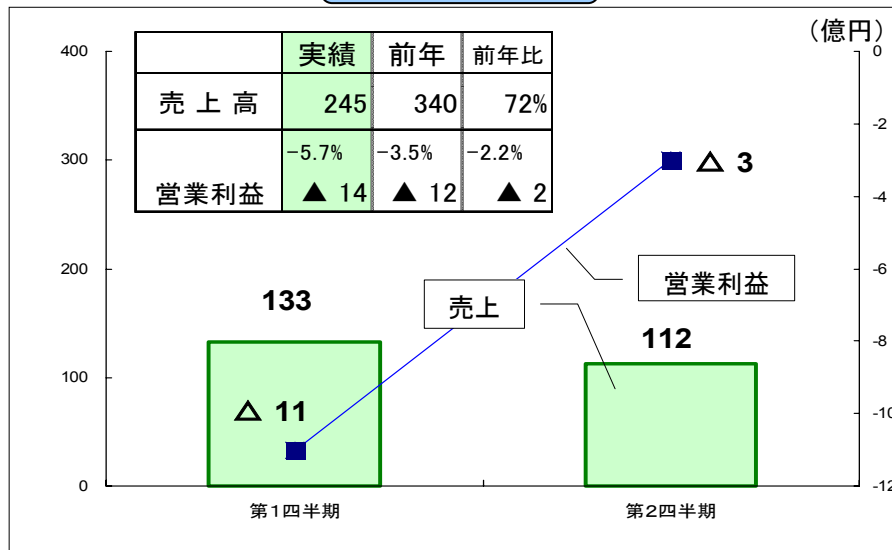
民生



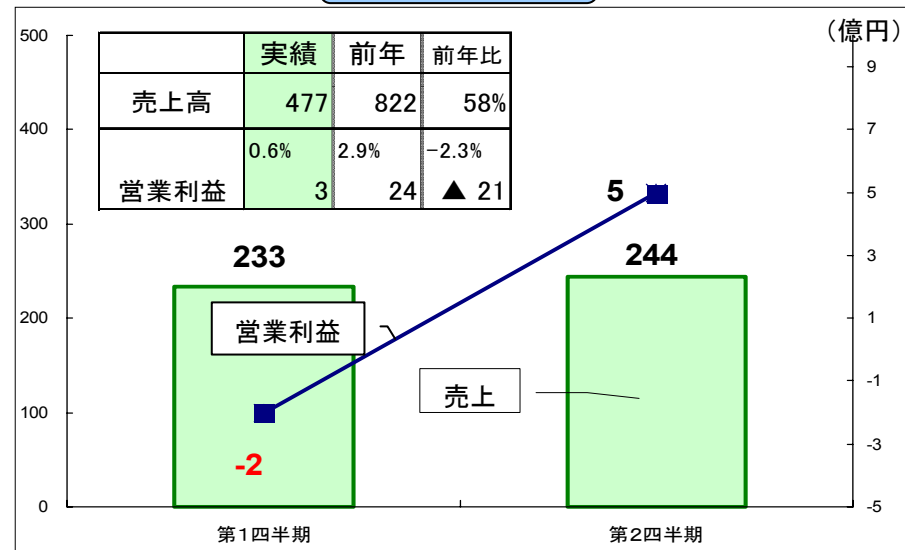
産業



デバイス



ソフト・メディア



特損益(連結)

(億円)

	実績
固定資産・不動産売却等	5.9
有価証券売却益	19.7
デバイス構造改革	▲ 1.2
特別退職金	▲ 60.3
過去分特許	▲ 2.6
その他	▲ 3.6
合計	▲ 42.1

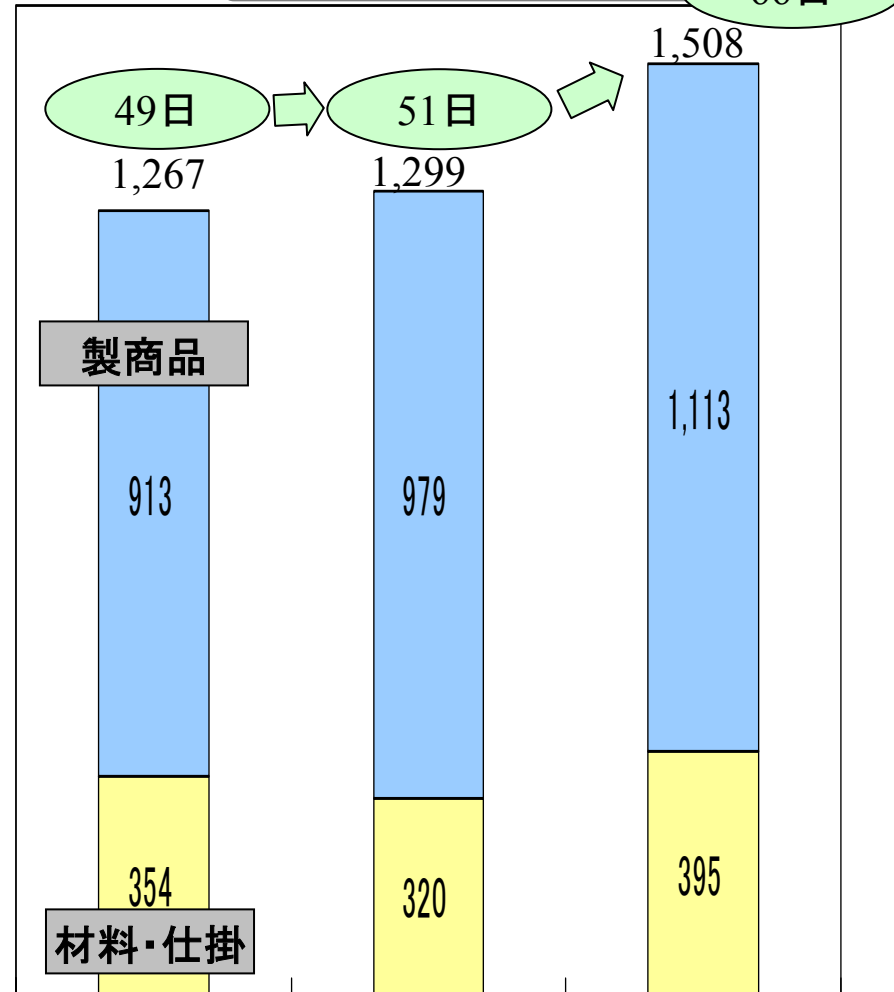
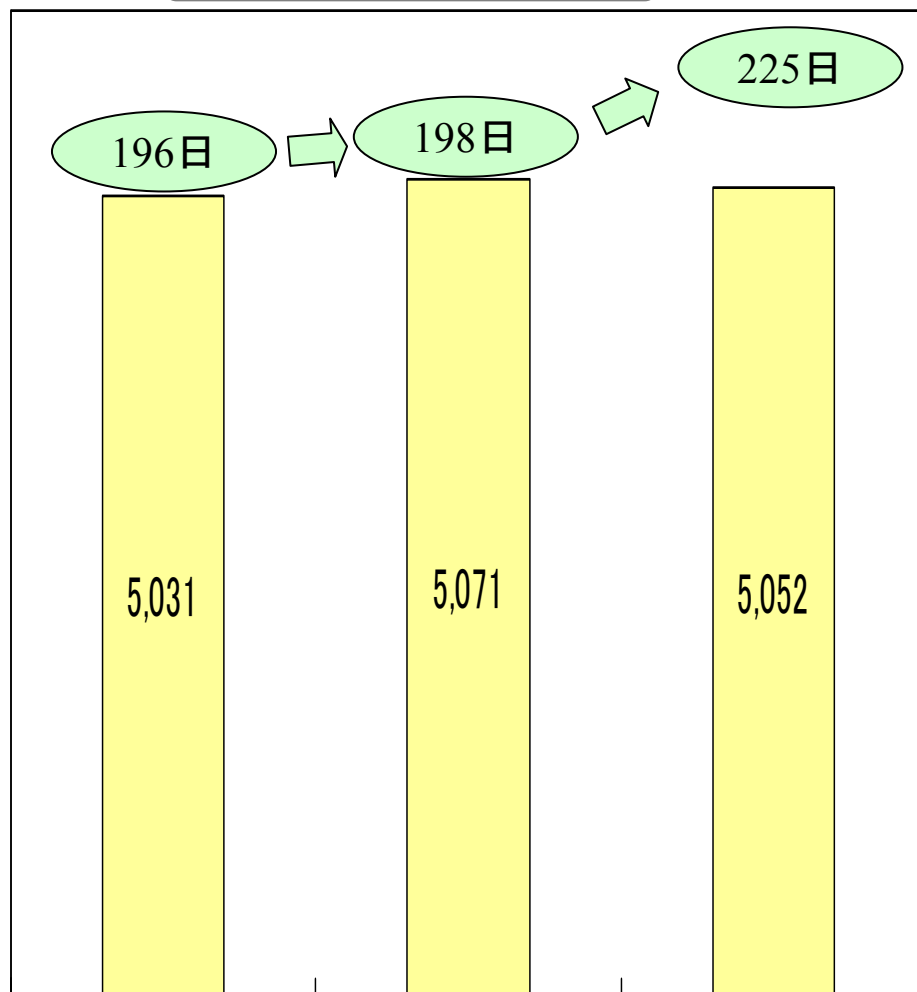
総資産の状況

総資産

為替レート	2003/9	2004/3	2004/9
US\$	111	106	109
EUR	129	129	132

棚卸資産

(億円)



2003年9月末

2004年3月末

2004年9月末

2003年9月末

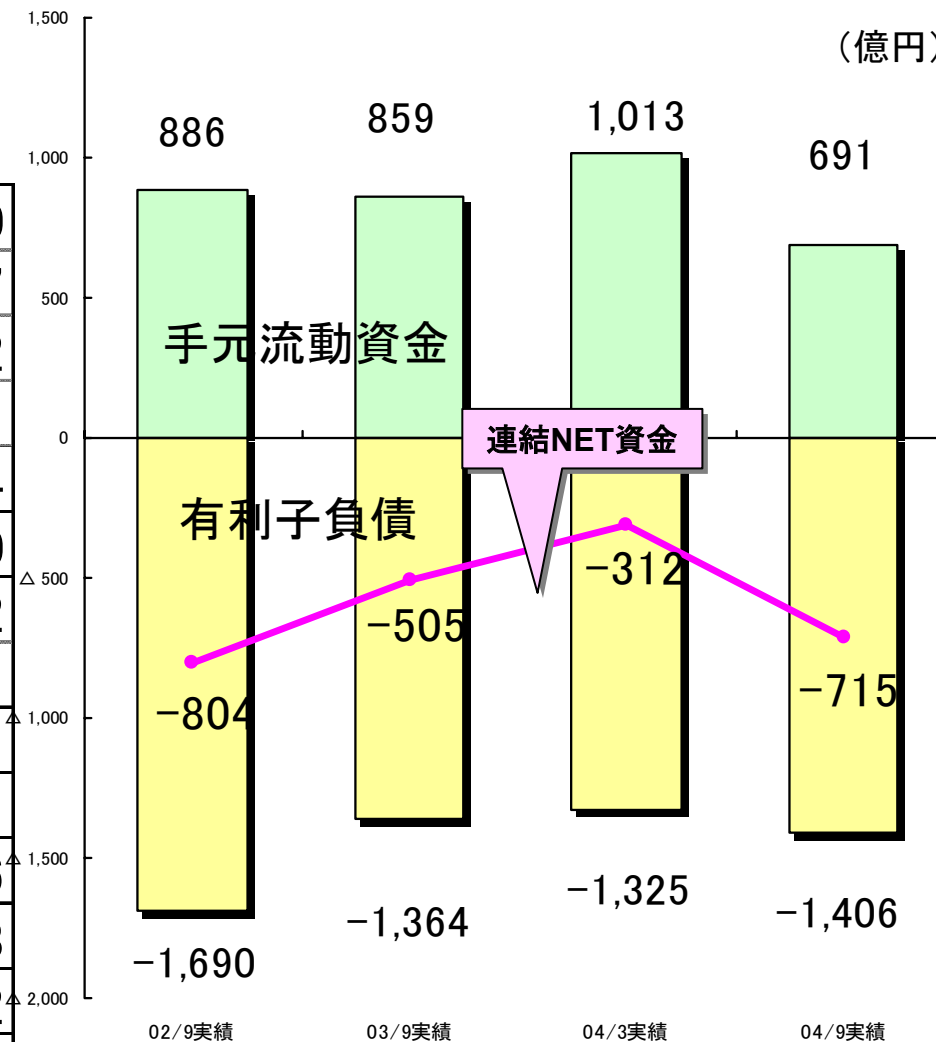
2004年3月末

2004年9月末

2004年度上半期 キャッシュ・フロー

連結C/F計算書

税引前利益	▲ 10
減価償却費	97
運転資金	▲ 152
棚卸資産	▲ 171
その他	▲ 64
営業C/F	▲ 300
固定資産	▲ 142
その他	101
投資C/F	▲ 41
フリーキャッシュフロー	▲ 341
財務C/F	46
その他調整	13
現金増減	▲ 282
期首残高	972
期末残高	690



【金型を除く有形固定資産】 (億円)

	2003年度	2004/上
設備投資	143	96
減価償却費	125	57

2004年度 業績予想

(億円)

＜連結＞

	修正見通し	当初予想	当初差	前年差	前年実績
売上高	9,050	9,350	97% 受託除<	102% 98%	8,859 9,220
営業利益	2.5% 230	3.0% 280	▲ 50	▲ 22	2.7% 252
経常利益	1.9% 170	2.5% 230	▲ 60	▲ 32	2.2% 202
純利益	0.4% 40	0.9% 80	▲ 40	▲ 116	1.7% 156

2004年度上半期 業績のポイント

(単位:億円)

	2004年度 上期実績	前年 実績	前年比/差
売上高	4,102	4,627	89%
営業利益	1.1% 43.4	2.2% 102.6	▲ 59.2
当期利益	-1.1% ▲ 43.7	0.8% 35.1	▲ 78.8

第2四半期業績が急激に悪化

大幅な減収減益で

上期業績を下方修正

環境変化を読み切れず、
経営のオペレーションが
デジタル化した時代の
スピードについていけなかった

カムコーダー事業不振

米州、欧州で民生販売不振

音楽ソフト(CD)事業不振

民生事業 上期の成果



HD-ILA リアプロジェクションテレビ
HD-61/52 Z575/585(7月発売)

HD-ILAリアプロジェクションテレビ 北米市場導入



GENESSA搭載
ハイビジョン液晶テレビ
LT-32/26LC50(6月初旬発売)

国内外でディスプレイ事業好調 第2四半期に黒字化



VHS&HDD&DVD
ビデオレコーダー
DR-MX3
(11月上旬発売予定)

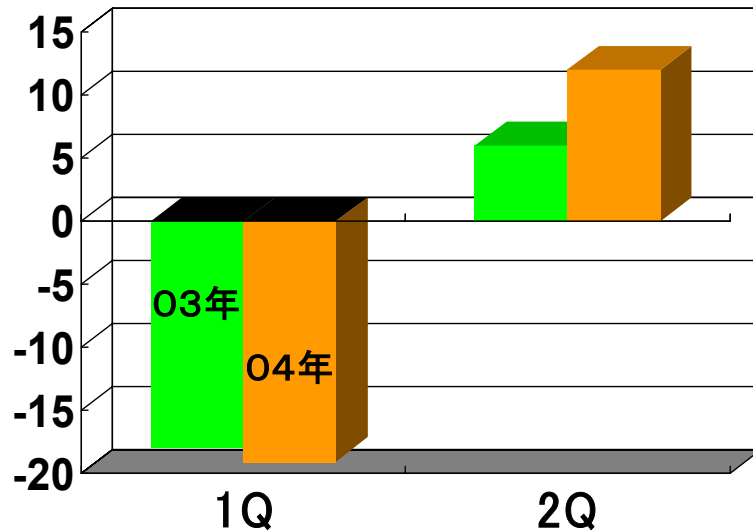
DVDレコーダー、3in1、VHSコンビ機で 日米で機種別シェア1位獲得



高精細カラーOELディスプレイ搭載
MP3/WMA対応CDレシーバー
KD-SHX929
(10月1日発売)

カーAV事業、米州、アジアを中心に 販売好調を持続

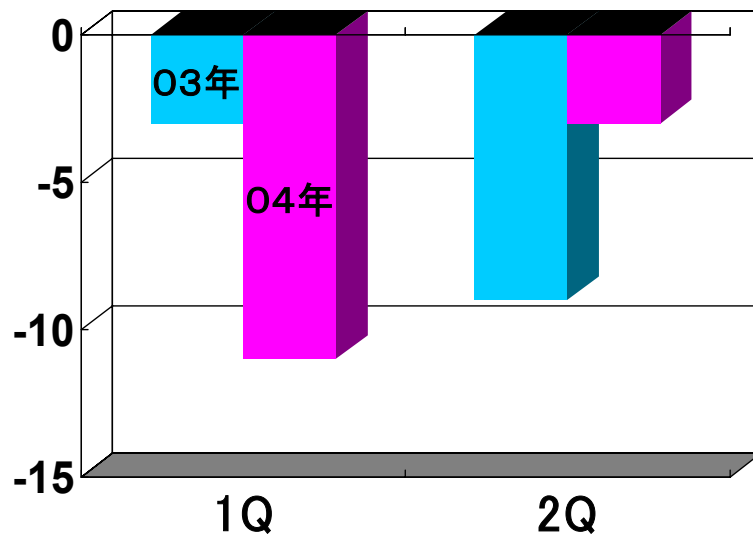
産業、デバイス事業の現状



産業

- ◆ ILA事業の民生展開効果
- ◆ 国内セキュリティ事業好調

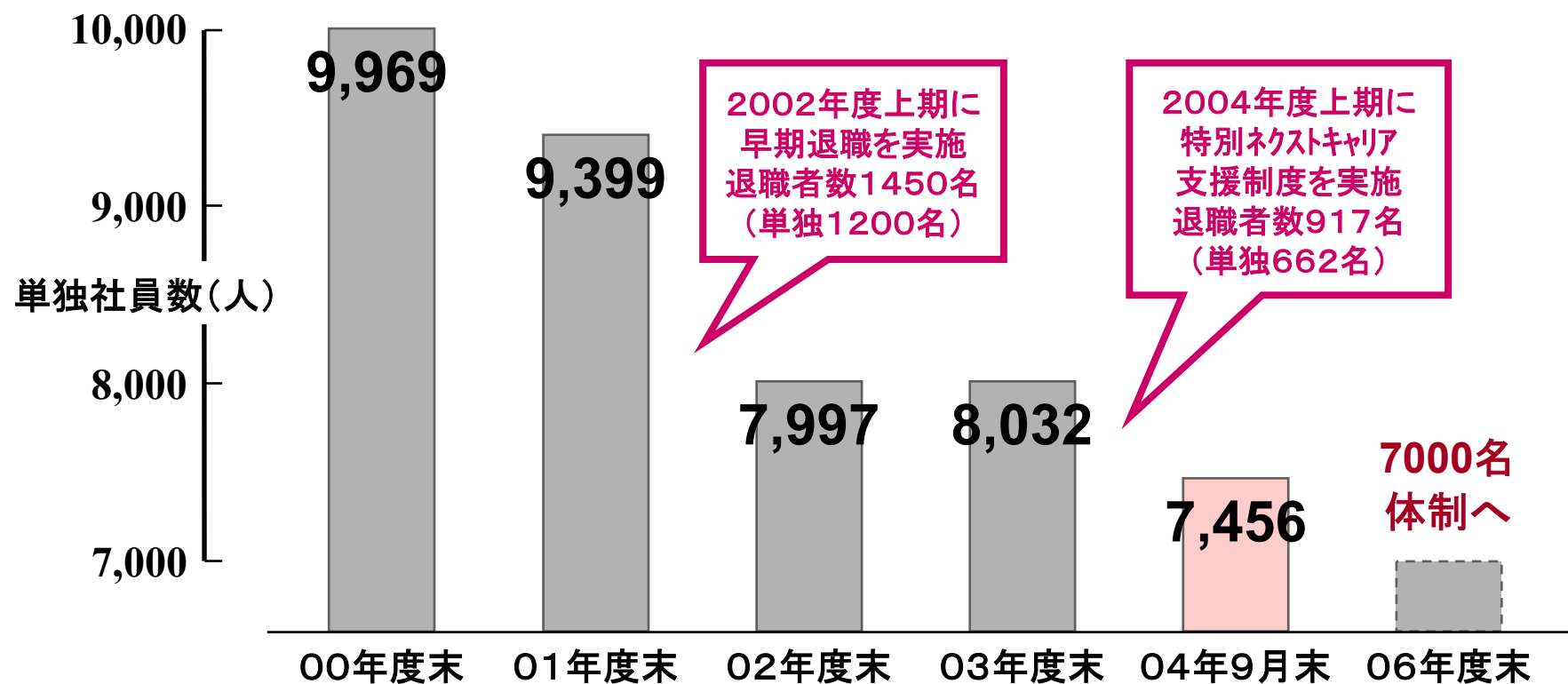
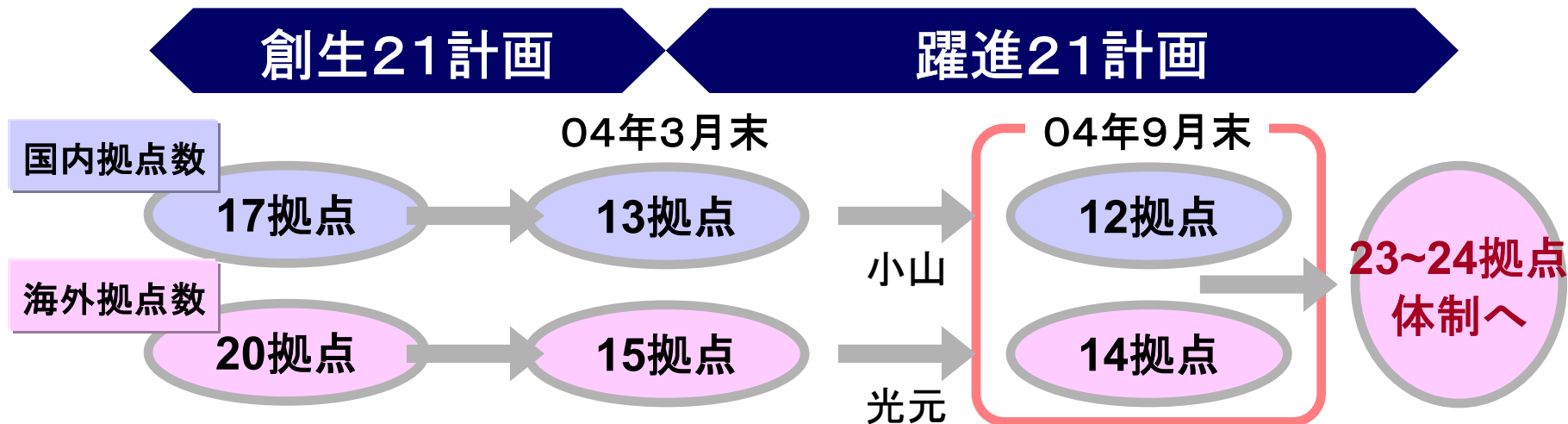
産業、デバイスとも前年比、第1四半期比で営業利益額改善



デバイス

- ◆ 構造改革効果
- ◆ 偏向ヨーク、CD用ピックアップ°
FDBモーター好調

雇用構造改革と拠点再編



下期に向けての取り組み

◆カムコーダー事業失地回復

- ～DVC新商品投入によるシェア回復と採算性向上
- ～ハードディスクカムコーダー“Everio”投入による新市場開拓

◆ディスプレイ、光ディスク事業強化

- ～HD-ILA安定供給
- ～GENESSA、光無線伝送ユニット等Only1要素の投入
- ～ロシア、アジアでのCRTシェアアップ
- ～3 in 1、VHSコンビを中心としたDVDレコーダーのラインアップ拡充

◆音楽ソフト事業構造改革の実行

- ～JENとの相乗効果の発揮(川上への経営資源の再シフト)
- ～新人発掘、育成力の強化
- ～上期発売遅延タイトルの確実なリリース
- ～着メロ、着うた等へのコンテンツ供給による権利収入の拡大